

はじめに

私は2009年に兄を自死で亡くし、その6年後の2015年には、大切な旦那も亡くしました。大好きだったお兄ちゃんと、19歳から16年間一緒にいたパートナーであり、2歳と5歳の娘たちのパパを、立て続けに亡くしました。

まだ2人とも30歳になったばかり。当たり前のようにお兄ちゃんは元気できて、当たり前のように旦那と一緒に子どもを育てて、当たり前のように一緒に歳を取っておじいちゃんとおばあちゃんになっていくものだと思っていました。

でも……それは違いました。

突然その当たり前のような日常を失い、そこで初めて、当たり前なことなんて何一つない、ということに私は気づいたのです。

兄の死をなんとか乗り越えようと生きていた矢先、支えてくれていた旦那が病気を発症し、その時点

で、余命14カ月と宣告されてしまいました。

四度の開頭手術からの闘病生活、2歳と5歳の娘を育てながらの在宅介護は壮絶なものでした。

介護保険が使えない30代の介護、そして義母からのいびり……。何よりも前頭葉の大半を失い正常な理解力、認知力、理性を失い、攻撃性のある重度の認知症状態になってしまった旦那が、何を思い、考え、求めているのかわからず正解が見えない闘病生活に、私は一人悩み苦しみながらも、奇跡を信じて旦那との時間を過ごしていました。

しかし……祈りは届かず旦那は天国に逝ってしまいました。

わけがあつて、周りには内緒の死別シングルマザーの私は、旦那があたかも健在かのように装い、泣いた心で笑顔を作り、心身ともに疲弊していきました。絶望を感じ、生きていることがとても苦しくて、毎日死ぬことを考えていた時期もありました。

しかし神様は、そんな私を見捨てませんでした。ある人との運命の再会から人生が好転し、現在再婚をして3軒目のマイホームで娘たちと毎日幸せに暮らしています。

「人生終わった」と思っていた私が、まさかまた心から笑える日がくるなんて……。

この私の波瀾万丈な人生を、より多くの方に知ってもらい、同じように旦那様を亡くされて頑張って生きておられる方や、ご自身や大切な方が今まさに闘病中という方の何か少しでもお力になれば……。図々しく言ってしまうと希望の光のようなものになれば……。と願いを込めてこの本を書いています。

また、ご病気の方でなくても、この本を読んで、今目の前に当たり前のようにいる大切な人は、明日も同じようにいるとは限らないこと。だから今を、その人を、大切に生きてほしい！ ということや、どんなに絶望的な人でも、人生這い上がっていける！ ということを知っていただき、読んでくださった方の人生がより輝くような、そんな本になつてくれたら、と思っております。

35歳の若さで、愛娘を2人遺して逝った旦那の無念の死を無駄にしないためにも、天国の旦那の分も、たくさんの方に私たちの想いを届けていきたいと思えます。

私たちの経験が、皆様の何かを変えるきっかけになってくれることを願って、天国の旦那と私の物語を、書き綴ってまいります。

読んでくださった方に、私たちからのメッセージが届いてくれると信じて……。

そしてもう一つ。この本を書こうと決めたときから、絶対に本の中に入れていたいと思うものがありました。それは、先ほど見ていただいた絵本です。

私は、旦那の病気がわかったときに、余命がわずかなパパの病気や、パパの死というものを2歳と5歳の娘たちにどう伝えるか悩みました。子どもには絵本や紙芝居で説明するのがわかりやすいかなと思いい、本屋さんで探したのですが、ちょうど脳腫瘍に当てはまるような絵本が見つからず、結局、子どもたちには納得がいくような説明はできないままになってしまいました。

そこで私はこの本の中に、私があのとときに欲しかった、幼い子どもにもパパの病気や死というものが優しく伝わるような絵本を入れたいと思いました。

自分の子どもたちも含め、パパやママが病気と闘っているお子さんや、パパやママが天国に逝ってしまつたお子さんに……、

「パパやママがたとえ姿が見えなくなつたとしても、そこには変わらぬ愛があり、すぐそばで永遠にあなたちを愛し支えつつづけてくれてるんだよ」

ということを知ってもらいたい!!

そんな願いを込めて、この絵本を入れていきます。

どうか子どもたちに、パパやママの愛が伝わりますように！
どうか子どもたちの心が、愛で満ち溢れますように！

かずママより